

あまてらすおほみかみ
天照大御神

天 壊 無 窮

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

天壤無窮の神勅

皇孫に勅して曰はく、
「豊葦原の千五百秋の瑞穂の國は、
是、吾が子孫の王たる可き地なり。
宜しく爾皇孫就きて治せ。行矣、
宝祚の隆えまざるべし、
当に天壤と窮り無かるべし」

【口語訳】 天照大御神が瓊杵尊に
勅して申されるには、「豊かで瑞々し
いあの国は、わが子孫が君主として
治めるべき国土です。わが孫よ、行っ
て治めなさい。さあ、出発しなさい。
皇室の繁栄は、天地とともに永遠に
続き、窮まることはありません。」

今月の御大札

五月一日

劍璽等承継の儀（劍璽渡御の儀）
賢所の儀・皇靈殿神殿に奉告の儀
即位後朝見の儀（踐祚後朝見の儀）

天皇陛下が劍（天叢雲劍の写し）・璽（八坂瓊曲玉）・御璽・国璽を継承する儀式。
皇祖皇宗ならびに天神地祇に踐祚を奉告する儀式。
踐祚後初めて新天皇として国民の代表に会われる儀式。

神道知識への誘ひ「踐祚」

「踐」は「ふむ・位につく」
「祚」とは「天子の位を
意味し、合わせて用い
ることで、「天皇の位に
就く」ことを表す言葉
です。古来、御代替（み
よがわり）では崩御も
しくは讓位を受け、空
位が発生しないよう直
ぐ御位に就かれること
（踐祚）を最も大事とさ
すこと（即位）と分け
て考えてきました。

三種の神器

「八咫鏡」、「八坂瓊曲玉」、
「天叢雲劍」〈別名：草薙劍〉
を総称して「三種の神器」と言
います。八咫鏡と八坂瓊曲玉
は、天照大御神が天の岩戸にお
隠れになられた際、岩屋の外に
お出ましにされたための祭りに
の祭具として作られました。
天叢雲劍は、出雲で素戔嗚尊
が八岐大蛇を退治した折、大蛇
の尻尾から出てきたもので、あま
りに霊威溢れる剣だったので、
天照大御神に献上されました。
後に日本武尊が東国征討の際

に火攻めにあつたとき、この
剣で草をなぎ払い、火難より
免れたことから、「草薙劍」と
も呼ばれるようになりました。
天照大御神は、天孫瓊杵尊
の葦原中津国への降臨に際し
て、この三種の神器を授けて、
天照大御神の子孫である皇孫
尊が未永く日本の国を治める
ようにとの「天壤無窮の神勅」
を下されました。以後、皇位
の継承とともに連綿と引き継
がれて現在に至っています。

東京都神社庁
http://www.tokyo-jinjacho.or.jp

